

ばっぴんウーマン

1979.10月
NO13

長崎女性問題研究会

事務局 津田尚美 Tel.

会員のみなさまへ

田吉4工

逐次刊行物

74.10.15

国立女性教育会館
女性教育情報センター

中年リヴのいる会

桑原勢津子

今日、はからずも原爆病院で、事務局の松崎澄子氏と病人同志でお目にかかりました。心はあっても体力的に活動できぬことは寂しいことです。大した病気でなくともこの秋の風の中で用心せねばならぬでしょう。

役所にちやうと寄りましたら、「女のノート3年」の発行はすばらしいといいつて何人かのみなから賛同を受けました。

何かを計画してみようということは意義あるすばらしいことだと考えます。然し、現実には常に厳しく禁を置

ではありませぬ。頑張りましょう。私は入院する程のことはいないので

すけと、当分、療養を続けることになるでしょう。会報には不定期でも

書けることがあったらお送りします。何かあったら私にも事件を、お教え

下さいませ。皆様方も無理せぬように御家族を

大切に秋をいたわってお過ごし下さいませ。
(9月22日記)

意地悪はあさん、頑固はあさん、肝、玉ばあさん、世話好きはあさんはいないか。もの分りのいいばあさん、やさしいおばあさんは、うんざりである。なぜなら、個性がないではないか。年々独得の開き直りの境地がないではないか。社会通念に従う意気地のなさでは年のとり甲斐がないというものだ。社会通念について詳しく書く余白がないが、女を差別するときどのくらい役に立つ武器であるか、女は毎日、思い知らされている。常識といい直してもいい。この勘えどころのないもの、直向うから論をたてて、立ち向うに困難なものこそ、紛糾すべきものであって、その旗手として意地悪はあさんは最適ではないか。若い人の斗いはどこかゲイムじみていたり、甘えがあったり、その上、女の場合は何としても結婚にうつつり掬めようとしたりして、迫かに乏しい。そこへいくと、日頃、職場でも家庭でも社会でも幻想を捨てた中年リヴは少々の感し

にもビクともしない意志がある。

先日、「女のノート3年」が新聞で紹介された時、あの田吉さんが会長なら」と県外からも注文が殺到した。あの田吉さん、というのは多くは原爆新念式典の「平和の誓い」を指すのであろうが、あの宣言はあの年令でなければ、人を感動させはしなかったと思う。田吉さんは74才であるが、決して老年ではない。精神の若さ、活動力……若年会員は逆立ちしても及ばない。私は中年リウとよびたい。そして中年リウは会長だけではいけないのが、わがB.Wの会の強みである。

「会員は20代から70代までいましてえ」という時の相手の意外そうな顔。それが好意へ変っていく様子をみると幸せな気分になる。相手は勿論、70代という点に反応を示すのである。ところでわが身を省りみると50才を目前にして、やっと視點も定まり、従ってほうほうもか言えるようになった。他人の目にはともかく自分では甚だ有益、かついい女になっていくワイ、と思ってるのだから意地悪ばあさんの素質は充分なのだ。(シミシメ)

★女のノート3年 〆の状況報告

9月21日、毎日新聞に、「女のノート3年」が紹介され、反響大々、県外からもたくさんのお便り、電話をいただいています。(97冊の予約) 10月18日の朝日新聞にも紹介されます。

「女のノート」ご希望の方は
郵送の場合

普通為替にて千二百円(送料共)事務局まで
お送り下さい。

津田尚美

尚、次のところにも置いてあります。

・好文堂書店1階 長崎市浜町8-29 Tel 23-7771

・ステラ好文堂書店 長崎市銅座町54-27 4-15

・喫茶VOICE 長崎市万屋町 21-9810

(観光通茶屋2階)

・九州教員 長崎市出島6-7、24、5253

(長崎新聞社より3軒目)

ご意見・ご批判をお寄せ下さい。

編集 山岸本桂子

事務局からのお知らせ

委員会、会場確保は当番制になりました。
協力下さい。

報は喫茶ロビーE(観光通)と珈琲セン
(古川町)に置いてあります。

そろそろ文化講演会の準備にとりかかる
時期になりました。

後藤、森崎、伊藤さんが担当です。

講師の期日、会場など、みなさんの希望を
伝え下さい。

一月五、五円玉カンパの現在高は8,900
円です。(後藤ヤス子担当)

会費納入時期となりました。(9月3月分)

後期分 会費 一八〇〇円

津市会費二二〇〇円

このことについて長崎女性問題研究会会印の
おしりがありました。

事務局のハンコもただいま注文しています。

新会費着中の松崎さんに代って津田さんが会
計を担当します。松崎さんには監査をお願い
しました。

新会員紹介

ちこの
旧見野美晴

、初めまして、見野美晴です。

どうぞよろしくお願ひします。

出身は長野県諏訪。結婚して昨年10月、
長崎に来ました。

ばってんウーマンの会は、毎日新聞「一点集合」
で知りました。今迄少し老人福祉のことなど
かじっていましたので、続けて考えたいと思った
のと、女性の生き方について誰かと話をしたく
てお電話をさせていただきました。

来崎してもうすぐ一年、やっと長崎という
所にも、主婦という立場にも慣れ、また何か
を始めようと動き出したくなっています。長崎
に来たからには、長崎の風土、生活、習慣など
知ろうと思ったのですが、同時に戦争を知
らない世代の私は原爆について考え、ほんの僅
かでもよいから何かしようと思っていました。
でも、結局、原爆祈念日にも何もせずTV
を見ていただけ。自分自身に焦りを感じ
ながら主婦に対する情報不足にも原因
があるような気がしました。

ある日、突然知る人のない所にひとりでやってきて、公の機関だけが頼りだからかもしれないが、私が見たのは（この日に聞して）新聞の10センチ四方の記事と平和公園あたりの10枚位のポスター。遅れて8月8日にきた市報ながさき。

主婦は地域社会の中核であると思うのですが、その主婦に対して情報が提供されにくいのは何故なのかしらと悩みます。学生の時も、仕事をしていた時も「地域に根ざして」という言葉をよく使ってきました。またそうなるければ日本の福祉は変えてゆかないと、今も思っています。しかし、今更のよう団体に属する日本では、団体に属さない主婦は心算がちな存在であり、地域に根ざすということが、どんなに難しいか思い知らされた気がします。

人間はやっぱり人の間で切磋琢磨して成長していくのではないかと思うのですが、こうしてここに毎日生活している限り、私は何も知らず考えずに過ぎていってしまいます。

どうをば皆さん、女性の生き方や、長崎や

原爆のこと、その他何でも教えて下さい。
最後に会へのお願ひ。

新規会員には入会のオリエンティングをしていただければ幸いです。会について話をすると、か、今までの会報を読ませて下さい。
私は一ヶ月程おらうおかれまして。

♥ 児野さんには9月6日女の子が生まれました。

★ 会員この頃 ★

後藤ヤス子

伊藤康子

森裕子（準会員）

現在、日常生活に於いてはいちゆる金たきおえん——生協、有機野菜と二つの消費者運動に加入し、そのために貴重な時間を束縛され、悲鳴をあげていると同時に、これらの運動がいかにかに家に居る主婦を中心に行っているかということに憤ってあるのです。外で働いている主婦は、どんなにその食品が汚染されていようと買わざるを得ないしくみになっています。